

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
浦野委員	1	139	政策6 健康・保健	<p>国もデジタル田園都市国家構想を進めており、さまざまな分野のDXなど今後いろいろな施策が出てくると思われる。そういった大きな流れの中で、医療・介護・福祉のDXを新潟市が先行して行うことが、拠点化を進めるうえで良いチャンスになるのではないかと。</p> <p>新潟市は様々な健康情報を集めやすいと思われるため、その活用ができてよい。県や国と一緒に連携しながら、デジタル技術を活かした計画を進めていただきたい。</p>	<p>新潟市が先行して医療・介護・福祉のDXを行うことが、拠点化を進めるうえで重要だと思われる。国や県と連携しながら、さまざまな健診データの蓄積を活用した健康づくりを進めるなど、デジタル技術を活かした施策を盛り込めると良いのではないかと。</p>
浦野委員	2	139	政策6 健康・保健	<p>健康づくりについて、国保の健診や企業の健診のデータがそれぞれの健診機関で止まっていて活用されていないと思う。それらのデータを活用して、医療と健康、予防のところの連携が新潟市で出来るとよいのではないかと。</p> <p>今後、母子手帳も電子化されるほか、学校健診のデータもあるので、それぞれの階層と組織によって途切れることのないように連綿的に新潟市の中で共有できれば健康づくりに役立つのではないかと。本当にリスクのある人に対して、早めに健診を受けたほうがよいよ、医療機関に行ったほうがよいよと受診勧告できるような仕組みが新潟市にできるとよいと思う。</p>	
長尾委員	3	140	政策6 健康・保健	<p>政策指標のうち、市民アンケートによって測る「自分が健康だと思う市民の割合」や「新潟市の医療が充実していると思う人の割合」は、主観的な指標であるため、定量的な指標に変更したり追加したりするとよいのではないかと。</p>	
浦野委員	4	140	政策6 健康・保健	<p>政策指標が市民アンケートに基づくものになるのはそれはそれでよいと思うが、どうしても主観的なものになるため、具体的な取組指標を検討するときに我々にも相談してもらえるとよいのではないかと。例えば、救急医療に関しては救急車の搬送時間や回数、介護に関しては介護度、健康診断に関しては受診率などが市民にとっても分かりやすいと思われる。総合計画の中では客観的なデータもきちんと取り入れる方向性を示したほうがよいのではないかと。</p>	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	5	140	政策6 健康・保健	政策指標「自分が健康だと思う市民の割合」とあるが、子どもがどのように感じているかということを感じ込めるとよいのではないかと。生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現というところに、子どもたちが自身の健康をどの程度認識して生活していくことができるかということも大事な観点になってくると思われる。	生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現を図るうえでは、子どもたちが自身の健康を意識して生活していくことも重要であることから、子どもが自分の健康状態をどのように感じているかを測る指標も盛り込めると良いのではないかと。
佐久間委員	6	140	政策6 健康・保健	自殺死亡率が政令指定都市の中でも6位と高い状態であることに對して、悩みを抱える人へのこころの支援の施策が少ないように思う。相談できる体制を構築することも大事であるが、今の中高生を見ていると、悩まなくていいことで悩んでいる人が多いと感じるため、自分らしさを大事にするというようなことが施策の中に大きく載るとよいのではないかと。周りに合わせたり周りの目を気にしながら生きて行かなくても、もう少し自分らしくてよいのだというように、そもそも悩まなくてよい世の中になるとよいと感じる。	施策1の「④悩みを抱える人のこころの支援」について、周りを気にして過度に悩むことのないよう、自分らしさを大切にするという視点を盛り込めると良いのではないかと。
丸田委員	7	141	政策7 福祉	「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められていることから、それをどう計画に盛り込むかが重要である。	「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められることから、それらを踏まえて盛り込むと良いのではないかと。
丸田委員	8	141	政策7 福祉	総合計画の中で政策目標を示していくときに、「共生社会」の実現を上位目標とするのか、それとも「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか、整理が必要ではないかと。	政策目標として「共生社会」の実現を上位目標とするのか、「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか整理すると良いのではないかと。
古侯委員	9	141	政策7 福祉	共生社会はとても広いもので、地域共生社会は共生社会よりも小さいエリアと理解しており、イメージとして共生社会というのは日本国全体で、地域共生社会は区内や市内という印象がある。この政策の中で「地域共生社会」という文言が入っていることはよいことだと思う。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
古侯委員	10	141	政策7 福祉	政策7の基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れていただけるとありがたいと思う。 目指す都市像の中でも使われている言葉であるが、バランスを考えながら「心豊か」というキーワードをちりばめてもらえると、新潟市は心豊かなまちを目指すのだということを若者などからも意識しながら読んでもらえると思う。	<p>政策7の基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れると良いのではないかと。そのほかにもキーワードとして「心豊か」という言葉を積極的に使うと、新潟市は心豊かなまちを目指すことが若者などにも伝わるのではないかと。</p> <p>自分たちの生活が今後どうなるのかというストーリー性のある説明やハートフルな言葉が盛り込まれていると、多くの人に身近に感じてもらえる計画になるのではないかと。</p>
長尾委員	11	141	政策7 福祉	「心豊か」というキーワードが新潟市が考えている方向性と合っているのであれば、積極的に使っていくとよいと思う。	
今井委員	12	141	政策7 福祉	総合計画の計画期間は8年間であるが、その間に自分や周囲の人たちが置かれる状況や立ち位置は大きく変わると思う。コミュニティ協議会で老人福祉センターの運営しているなかで、認知症と見られる方がなかなか支援に実際に結びつかないということが今でも起きているが、そのような、自分たちの生活が今後どうなるのかという視点が入ってこない、計画が実際の生活と少し離れてしまうのではないかと感じる。	
今井委員	13	141	政策7 福祉	ストーリー性のある説明やハートフルな言葉が盛り込まれていると、多くの人が身近に感じられる計画になると思う。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	14	141	政策7 福祉	「地域共生社会」はキーワードとして大事なものであると思う。その根底にあるのは、みんながどの立場であっても参加するということだと思うので、支援を受ける側、受けない側だけではなく、みんながそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくということが見えるとよいと思う。	<p>「地域共生社会」の実現にあたっては、支援を受ける側、受けない側だけではなく、市民一人一人がそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくことが重要である。多数派の方々だけではなく、LGBTのほか子どもや若者、一人暮らしの高齢者などの少数派の方々であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったと実感してもらえるような社会をつくることが見えると良いのではないかと。</p>
小池委員	15	141	政策7 福祉	政策7の内容が、これまでの多数派の人たちのところに焦点が当たっているイメージがある。多数派の人たちが地域の中で安心して暮らせることは当然大事なことであるが、地域共生社会という言葉を出すならば、LGBTのほか、若者や一人暮らしで高齢になってきた方々など、少数派であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったと思ってもらえるような社会を作ることが盛り込めるとよいと思う。	
今井委員	16	141	政策7 福祉	「政策7 自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会の実現」と大きく書かれているが、内容は高齢者、障がい者、生活困窮が中心になっている。それらだけを大きく取り上げすぎると、隙間が生まれるのではないかとこの感覚がある。 この総合計画をベースにそれぞれの区や地域で取り組むことになるが、多くを占める高齢者に片寄せた施策ができていくということはどうかと思っており、人口が多いところばかりフォーカスされすぎるのも良くないと感じる。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
佐久間委員	17	141	政策7 福祉 政策1 市民活躍	政策7「自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会」の中に、LGBTQの言葉が入っていてもよいのではないかと。新潟や北陸はLGBTの理解が進んでいない地域と言われるなかで、新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々が胸を張って活動しているというのはいいことだと思うので、盛り込んでもらいたい。	<p>LGBTについて、新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々が胸を張って活動しているというのはいいことだと思うことから、いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画の中でわかるようにすると良いのではないかと。</p> <p>政策名の「生涯にわたる健康で安心な暮らし」や「自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会」の実現を図るためには、いかに若いころから地域の中で関係性が築けるかということが重要だと思われる。子どもころから地域に関わり、中高年になっても地域と接点を持ち続ける重要性を強調すると良いのではないかと。</p>
井上委員	18	141	政策7 福祉 政策3 子育て	高齢者にしても障がい者にしてもそこに性別は関係ないと思うので、地域共生社会のところにLGBTが書かれてしまうと逆差別のような感覚を覚える。それよりは、例えば、結婚や出産に関する部分などにパートナーシップ宣誓制度を記載するなど、いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画に盛り込まれていけばよいのではないかと。	
井上委員	19	143	政策7 福祉	生涯にわたって健康であるとか、自分らしくいきいきと安心して暮らすためには、いかに若いころから地域の中で関係性が築けるかということが重要だと思ふ。 年を重ねてから地域に出て行っても、誰かが親身になってくれるといっても相談しにくかったり、心情的にそうになってしまう。子どものうちから地域において、中高年になってもいかに地域と接点を持てるかということは、すべてにおいて重要になってくるのではないかと。堅苦しい施策ではなくて、まちを楽しみながら健康になって、さらに相互共存できる社会になると良いと思ふし、そういう視点を強調することが大事だと思ふ。	
井上委員	20	143	政策7 福祉	単身の高齢者が増えていくなか、亡くなってしまったときにどうするのかというようにことに対して、今以上に制度や仕組みが整っていないと上手くいかないと思ふ。 家族だけではなく横のつながりをいかにつくるか、共生していける社会を確立しておかないと、若者をはじめ新潟に来る人もいないと思ふので、いかに地域の人たちとつながっていくかということを中心にしなければいけない時代になると感じる。	
佐久間委員	21	143	政策7 福祉	子育て期から地域に出ること大切だと思ふ。例えば、公民館は高齢者だけではなく赤ちゃんからみんながいる場所になるとよいと思ふ。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	22	145	政策7 福祉	政策7について、若者支援の観点も盛り込んでもらえるといい。20歳前後から大体40代くらいまでの方々、若者に対する集中的な施策が見える形になるとよいし、そこに困窮女性への対応も盛り込んでもらえるといい。	政策7について、若者に対する支援や困窮女性に対する支援の観点も盛り込むと良いのではないかと。
長尾委員	23	145	政策7 福祉	政策7について、施策として介護や看護の人材確保が掲げられているが、政策指標に対応するものがないため、それを測る指標を追加すると良いのではないかと。	政策7について、介護や看護の人材確保の状況を測る指標を追加すると良いのではないかと。
佐久間委員	24	85	重点戦略6	戦略展開の方向に「いつまでも元気でいきいきと暮らせるよう、市民の健康づくりを推進し、生活習慣病の発症予防、早期発見、重症化予防を図ることで健康寿命の延伸を促進します」という文章があるが、生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、表現を工夫すると良いのではないかと。	生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、他の要素についても触れるなど表現を工夫すると良いのではないかと。
浦野委員	25	85	重点戦略6	(佐久間委員の意見について)一つのキーワードとして健康寿命というものが出ていると思うが、認知症などさまざまな要素が関わるため、市民に分かりやすいように表現を工夫していただければと思う。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
今井委員	26	87	重点戦略6	「子どもから高齢者まで…」という言葉は、どうしても子どもと高齢者というところに意識が向いてしまって、20代から50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまうことがあるため、そうならないような別の表現ができるとういのではないかと。	「子どもから高齢者まで…」という言葉は、子どもと高齢者に意識が向き20代から50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまうことがあるため、「誰もが」を加えるなど表現を工夫すると良いのではないかと。
古俣委員	27	87	重点戦略6	(今井委員の意見について)子どもから高齢者、障がい者という言葉の後に「誰もが」という言葉を入れると、30~40代の子育て世代の方も含まれることが伝わるのではないかと。	
長尾委員	28	87	重点戦略6	重点戦略6の政策指標「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると思う高齢者の割合」について、この重点戦略6は必ずしも高齢者に限った話でないと思われるが、高齢者に限った指標を設定するのはチグハグな印象を受けるので、文章を直すか、もしくは全ての世代を対象とした指標にするとよいのではないかと。	

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
浦野委員	29		- 全般	総合計画として、若者がこのまちに残りたいと思えるような観点をもう少し強く入れてほしいと思う。若者にとって魅力的なまちになる、というメッセージを盛り込めると、さまざまな施策が生きてくるのではないかと思う。高齢の方を大事にするのはもちろんであるが、子どもに寄り添うことであったり、若者が新潟に残ってよかったと思えるようなことを盛り込んでもらいたい。	総合計画全体として、若者がこのまちに残りたいと思えるよう、若者にとって魅力的なまちになるというメッセージを打ち出せると、他の施策も生きてくると思われる。意識的にキーワードを盛り込むなど、子どもや若者に向けた施策をよりわかりやすく見せられると良いのではないか。
小池委員	30		- 全般	持続可能なまちづくりを意識して総合計画を作ろうとしていることはわかるが、全体的に子ども、若者に向けた施策をどう盛り込んでいくのかが見えづらいため、計画全体に対してそのように思う。	
長尾委員	31		- 全般	総合計画として若者や子どもを大切にしようという意図があるのであれば、意識的にいろいろなところにキーワードとして盛り込んでいくとよいのではないか。	